

川又 茁

かわまた・めぐむ

教育者

経 歴

生: 文久元年(1861年)10月9日、武蔵国江戸外桜田石川若狭守邸内生まれ

没: (不明)

明治元年(1868年)	8歳	下館藩校(東京桜田)において漢学を修める
明治3年(1871年)	10歳	茨城県の下館にある漢学校において、漢学(大学・中庸・論語・孟子・易経・春秋・史記・文選・左氏傳など)を修める
明治4年(1872年)	11歳	茨城県の下館にあるその漢学校において助教を勤める
明治5年(1873年)	12歳	東京芝愛宕下町の勧学義塾において、英人ランペルトについて英学を始める
明治7年(1875年)	14歳	ランペルトが石川県金沢英学校に転勤したのに同行し、学習のかたわら通弁を勤める
明治8年(1876年)	15歳	東京英学校に入り、英語学、地理学、漢文学、数学、史学(万国史)、生物学(生理健全学)、代数学、幾何学、和文学、画学を修める
明治10年(1878年)	17歳	東京英学校が廃校となったため、東京大学予備門へ入り、第一年に史学(中古近代)、生物学(植物)、数学(代数・幾何)、英語学、和文学、漢文学、画学を修める。 第二年には物理学、化学(無機)、理財学、を修める。
明治12年(1879年)9月	19歳	東京大学予備門卒業
明治12年(1879年)9月～ 明治14年(1881年)9月	19～ 21歳	東京大学法学部において、以下のとおり修める。 和文学、和作文、漢文学、漢作文、史学(フランス・イギリス)、英文学、英作文、論理学、法学痛論、フランス語、日本古代法律(大法令[貞永式目])、日本現行法律(刑法[治罪法、訴訟演習])、イギリス法律(諸論、刑法、不動産法、私権法、○約法、代理法、衡平法、訴訟法、証拠法、家族法、訴訟演習、売買法、会社法)、イギリス憲法、フランス法律要領
明治13年(1880年)9月	20歳	東京大学法学部第一年卒業
明治14年(1881年)9月	21歳	東京大学法学部第二年卒業

明治16年(1883年)11月13日	23歳	広島県福山中学校二等教諭
明治23年(1890年)4月4日	30歳	教長(教頭)
明治26年(1893年)4月24日	33歳	広島県福山尋常中学校退任
—	—	東京に在留
明治33年(1900年)	40歳	香川県尋常中学校大川分校教諭
明治36年(1903年)	43歳	大川分校が独立して大川中学校となるのに伴い、学校長兼教諭

生い立ちと学業、業績

川又信勇の長男。原籍は東京市麻布区材木町三十五番地。福山での住所は、広島県深津郡福山町西町四百九十二番邸。

川又茁に関する情報は少なくよく分からない。

幼くして江戸の下館藩校に学んでいることから父親が下館藩士だったのかも知れない。維新の混乱のなかで国もと茨城県の下館にある漢学校に移って漢学の修養を続けるなかで、早くも11歳のころにはその漢学校の助教を勤めている。

英語に出合ったのは、明治5年(1873年)、12歳で勸学義塾に学んだ時と思われるが、わずか2年後には通弁を勤めていることから、生まれつき相当に優秀な能力を持ち合わせ、また相当な努力家でもあったのだろう。

その後、東京英学校、東京大学予備門、東京大学法学部と、5～6年のあいだに法律を中心とした学問を修めている。

これらの学校は、いずれも当時の日本では最高の学問の府であった。

直接に指導を受けた教授たちは、当時の政官学界の中心にいる人ばかりである。

福山中学校への奉職のいきさつはまったく分からない。

ただ明治16年(1883年)、23歳の時点での初任給がすでに40円、明治20年(1887年)には55円になっている。

これは当時としては破格の高給で、現在の貨幣価値にすると240万から330万円にも値する。

雇用者としての広島県は、東京大学卒業の超エリートを迎えるという雰囲気だったのではないか。

明治18年(1885年)3月、福山中学校附属書籍館の開設時には10円の寄付をし、後には書籍の寄贈をしている。

また明治25年(1892年)7月に、紛失していた「孔子画像」が骨董商より持ち込まれると、武田安之助校長らとあいばかり買い求め、学校へ寄贈している。

明治26年(1893年)に至って生徒退館請願事件が起きてしまった。
この事件は、川又茁教長(教頭)と若井遜教師(前校長)が退任させられるという噂に対して、
武田安之助校長へ留任を求めて聞き入れられなかったために多数の生徒が集団で退館を願
い出たというものである。

両教師がいかに生徒の信頼を得ていたかが良く分かる。

その年の4月に学校は広島県福山尋常中学校となり、武田校長と川又教長ともに再任された
が、しかし残念なことに4月22日に川又教長が、4月25日には武田校長が免官された。

誠之館での子弟には、高木伴二、福田禄太郎などがいる。

高木氏は、「川又先生からリーダー・文法・会話・作文・修辞学ノ外、マコーレー氏のエッセイ
物、ゴールドスミス氏の小説等、文学物ヲマナビマシタ。」と述懐している。 三村敏征(昭和3
8年卒)

出典1:『川又茁関係資料』、福山誠之館同窓会所蔵

出典2:『誠之館百三十年史(上巻)』18・351・410・413・493・523・539・554・825頁、福山誠之館同窓会刊、昭和63年1
2月1日

2006年6月5日追加●2006年6月6日更新:本文●2007年10月16日更新:経歴・本文・関連情報●2008年2月1日更新:
経歴・本文・関連情報削除●